

6.2 教育・研究指導のあり方

進捗状況報告

【6. 2. 1カリキュラムにおける高・大連携】2005年度から高大連携の試みとして受け入れを開始した文学部の授業への高校生の聴講者数は、2007年春学期は3名であったが、2008年度春学期は8名となり、実績を重ねつつある。

【6. 2. 2履修指導】文学部という学びの場への案内と初歩のアカデミック・スキルの伝達とを目的とする人文演習科目の充実を図るための人文演習担当者会議は、2007年度も2007年9月20日と2008年3月15日に行われ、この授業の現状の分析と問題点の洗い出し、および改善の方策をめぐっての議論を重ねている。そして、そこでの検討内容と連動するかたちでカリキュラム委員会においても、学部の理念と新入生の学習到達度の実状との双方に照らし合わせた上での導入教育の今後のありかたについての議論は継続的になされている。また留年者・成績不振の学生への対応としては、教務主任・副主任が2007年度の学年末に、連絡に応じた10数名の学生を対象としての面接指導を行った。外国人留学生に対しても、2008年4月の入学時オリエンテーション時に各学科・専修が行うガイダンスとは別に、留学生のみを対象とした教務主催のオリエンテーションも実施して、留学生に対するその後の履修指導もスムーズに行える条件を整えた。

学内第三者評価

学部の導入教育の中心として人文演習の充実に向けた検討が精力的に検討されている。それが、専門分野の導入にとどまらず、真の意味での文学部全体の教育の導入教育として充実することを期待したい。留学生への対応や留年者・成績不振者など多様化する学生への取り組みが制度化されつつあると認められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
高校生の聴講制度、導入教育のありかたについてひきつづき努力がなされている。